



▼地域医療の拠点として機能充実▲

新救命救急センター完成



一昨年から増築を進めてきた大垣市民病院の救命救急センターが完成し、1月14日、同病院で竣工式が行われました。

新しい救命救急センターは、鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積は約4,000㎡。これまでの約4倍の広さとなり、病床数を15床から倍の30床に増床しました。診察室や処置室なども広くなり、車いすやストレッチャーでの移動が容易になりました(=写真:上=)。

また、災害時の医療拠点として耐

震基準の1.5倍の強度を確保。非常用発電機や防災備蓄倉庫を備え、診察待合のソファも簡単な操作で簡易ベッドに早変わりします。

X線室には最新鋭のCT装置を導入したほか、屋上に太陽光発電装置を設置し、環境にも配慮しています。

竣工式には、小川市長や石川市議会議長、病院職員など関係者ら約120人が出席。小川市長は「西濃医療圏域の中核病院として、医療サービ

大垣市民病院救命救急センター竣工式



スの更なる向上と医療機能の充実に努め、これまで以上に信頼される病院づくりに取り組みたい」とあいさつしました(=写真:中=)。

同センターは、1月18日の午後1時から診療を開始しています。



市民病院で集団救急模擬訓練

竣工式の翌15日には、完成したばかりの救命救急センターなどを舞台に集団救急模擬訓練が行われました。震度5強の地震が発生し、家屋倒壊や交通事故などによる患者が、市民病院に次々搬送される想定で訓練を実施。

軽傷者から重症者までの53人の模擬患者が順次運ばれるなか、医師や看護師などが病状の診断や救命措置などを行い、参加した病院スタッフら約200人が本番さながらで訓練に取り組んでいました。

総合防災訓練

1月21・22日の両日、市内10会場で総合防災訓練が行われ、多くの市民が災害発生時の初動体制を確認しました。

このうち、自宅や職場で発生した地震に対処する「発災対応型訓練」は、22日に南連合自治会地内で行われ、約300人が参加。



大規模災害に備えて

消火器やバケツリレーによる初期消火、けが人の応急手当や搬送法のほか、ジャッキと人形を使って倒壊家屋から負傷者を救助する訓練など、災害発生に備え、実践的な訓練が行われました。

消防出初式

市内の消防関係機関が一堂に会する消防出初式——。

1月8日、消防団員をはじめ事業所自衛消防隊、女性防火クラブ、少年消防クラブなどから約780人と消防車両51台が参加し、東外側町の水門川沿いを中心に行われました。

消防団員らは、小川市長や石川市議会議長らによる閲団を受けた後、空高く一斉放水を実施。その後は、大勢の市民が見守る中、式典会場のスイトピアセンターまで規律正しい分列行進を披露しました。

